

- 1 主題名 言葉づかいは心づかい
- 2 ねらい 相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや態度について考えを深め、自分も相手も気持ちよく過ごせるようにしようとする態度を育てる。
- 教材名 「ちょっとひどくない？」 (出典:「彩の国道徳」(高学年)『夢にむかって』県教委)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

第5学年及び第6学年の内容項目「礼儀」には、「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。」とある。これは、中学年の「礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること」を受け、中学校への「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること」へと発展していくものである。

礼儀は、相手の人格を尊重し、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示す行為であり、心と形が一体となって表れてこそ、そのよさが認められる。真心がこもった気持ちのよい言葉を交わすことは、人と人との心をつなぎ、人間関係や社会生活を円滑にするために大切なものである。礼儀の形に込められた思いやりの気持ちを考えることを通して、一人一人が自分の言葉を見つめ直し、大切に言葉を使おうとする態度を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

最高学年として様々な場面で低学年をまとめたり、みんなの前に出て発言したりする機会が増え、責任ある言動が必要とされる中で、低学年に優しく声をかけ、教師や保護者などに礼儀正しい言葉づかいや態度で接することができる児童は多い。しかし、礼儀のよさや言葉づかいの大切さについて、知識として知っていても、時として心のこもった挨拶や言葉遣いが行為として表せない場面もみられる。また、学級の仲間と協力し合って仲良く活動できる一方で、慣れや気安さからちょっとした言葉づかいや態度の行き違いで相手を傷つけてしまうこともある。

このことから、よりよい人間関係を築き、つながりをより深いものにするためには、時と場をわきまえた真心のこもった態度が必要であることに改めて気づかせていきたい。そして、自分も相手も気持ちよく過ごすために、相手を敬い思いやる心を礼儀正しい言葉づかいや行為に表すことの大切さを考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公の「私」が、「うざい」という言葉を何気なく使っていたが、あるときその言葉が自分に向けられたことで、相手の気持ちを考えた言葉づかいの大切さについて考え始める話である。

話を次の2点から構成する。

- ① 友だちと「うざい」という言葉をつかっておしゃべりをしていた私の気持ちを考える。
ここでは、「うざい」という言葉をよくない言葉と知りながらも、友だちと一緒に使ったことでの一体感やうれしさを感じる「私」に共感させる。さらに、その言葉を友だち(節子)にも向けてしまったときの私の気持ちを話し合うことで、言葉を使うときに大切なことや気をつけようと思っても実現できない難しさを改めて考えさせたい。
- ② 美代子や志保、節子の顔を見比べながら私は何を考えていたのか話し合う。
ここでは、今まで何気なく使っていた言葉が自分に向けられて初めて、言われた相手の気持ちに気づき、私の言葉についての考えがどう変化していくかを考える。そして、相手も自分

も気持ちよく過ごすためには、相手を思いやった礼儀正しい言葉づかいや行為が大切であるという道徳的価値についての理解を深めていきたい。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 言葉に関するアンケートの結果を知る。		・アンケートの結果から友だちの言葉に対する考えを知り、学習への意欲を高めさせる。
展開	2 教材の登場人物や条件・状況について知る。 3 教材の読み聞かせを聞き、私の心の変化を中心に話し合う。 (1) 友達と「うざい」という言葉を使ったときの私の気持ちを考えよう。 (2) 節子に「うざい」という言葉を使ったときの私の気持ちを考えよう。 ・2つの考えをもとに考えましょう。 ・そう考えたのはどうしてですか。 (3) 美代子と志保、節子の顔を見比べて、私はどんなことを考えていたのでしょうか。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>私と美代子、志保、節子は小さいころからの仲良し。いつものように美代子と志保とおしゃべりしていた私だが、ある言葉をつかったことをきっかけに、友だちとの関係が変わっていく。そして、言葉についても考え始める。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・軽い気持ち ・みんなで言うと楽しい ・一体感がある。 ・みんなと一緒に軽い気持ちで言っていて楽しんでいる。 ・少しいけないと思っているけど、その場の雰囲気と言っている。 <別にいい、気にしていない> ・みんなと言うのが楽しいから ・節子が悪いと思っている。 ・節子の気持ちは考えていない。 <ちょっと悪いな、気にしている> ・自分が言われたら嫌だから ・ついつられて言ってしまったけど節子が心配な気持ちもある。 ・節子の気持ちを考えると悪いな。 ・前はみんなで使って楽しい言葉だったけど、今は一緒に笑えない。 ・ノリで「うざい」を使っていたけど、やっぱりよくなかったな。 ・傷つく言葉だってわかったから相手の気持ちを考えると気軽に使えないな。 ・今まで何気なく言葉を使っていたので、これからは相手の気持ちを考えて使うようにしたい。 ・言葉の受け取り方は人によって違うので、相手がどう感じるかを意 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉に対して、何も考えずに使っていることがよくあることをとらえさせる。 ・初めは作文に向けられていた「うざい」という言葉が、節子に向けられたことについておさえる。 ・私の心の中を考えることで、悪いと知っていても気にせず使ってしまう人間の弱さに気づかせる。 ・2つの視点で考え、話し合う。 ・そう考えた根拠を伝えるようにさせる。 ☆友だちの考えを聞き、自分の考えと比較しながら多面的・多角的に考えている。 ・「うざい」という言葉が自分に向けられたことで、傷つき、言われた側の気持ちや、言葉について考えだす私の心の変化と葛藤をとらえさせる。 ・本時の学習について振り返り、自分の言葉でまとめさせる。 ☆これまでの自己を見つめ、言
閉	4 今までの自分を振り返り、よりよい生き方を考える。 ・今日の授業を通して、言葉について考えたこと、		

終末	学んだことを書き、発表する。 5 教師の説話を聞く	識して言葉を選んでいきたい。 ・周りに合わせて使うだけでなく、相手のことも考えて言葉をつかうようにしたいと思った。	葉をつかう上で大切なことを考えようとしている。
----	------------------------------	--	-------------------------

5 他の教育活動との関連

- ・学級活動や、朝の会、帰りの会などの学校生活の中で、相手のことを考えた言葉や礼儀正しい言葉の大切さについて話し合う。
- ・学校行事や学校生活において、様々な人と接する場面での礼儀や時と場合に応じた言葉づかいについて意識させる。

6 評価の視点

〈物事を多面的・多角的に考えている様子〉

- ・様々な考え方があることを知るとともに、自分の考えと比較しながら友だちの考えをしっかりと聞き、考えている。

〈道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている様子〉

- ・自分や他人の中にある心の弱さや葛藤に気づき、自分や相手を大切にして、礼儀正しい言葉づかいをしていこうとしている。

7 板書計画

